

2018年12月4日

各 位

会 社 名 わかもと製薬株式会社
代表者名 代表取締役社長 堀尾 良宏
(コード:4512、東証第一部)
問合せ先 広報室長 福原 和彦
(TEL 03-3279-0334)

緑内障・高眼圧症治療剤「WP-1303 (H-1129)」の
国内第III相臨床試験に関するお知らせ

わかもと製薬株式会社(本社:東京、代表取締役社長 堀尾 良宏、以下「わかもと製薬」)は、株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所(本社:愛知、代表取締役社長 日高 有一、以下「DWTI」)が創製したRhoキナーゼ(ROCK:Rho-associated, coiled-coil containing protein kinase)を含む多様なプロテインキナーゼ阻害剤¹⁻²⁾(H-1129)を用いた当社開発コード、WP-1303(以下「本剤」)の緑内障・高眼圧症を適応症とした国内第III相臨床試験情報を財団法人日本医薬情報センターが運営するウェブサイト「臨床試験情報」(<http://www.clinicaltrials.jp>)を通じ、公表したことをお知らせします。

本試験では、緑内障・高眼圧症患者を対象に本剤を投与した際の眼圧下降効果と安全性について検証致します。

本剤は、各種プロテインキナーゼを阻害することにより、線維柱帯-シュレム管を介して主流出路からの房水流出を促進し眼圧を下降させることが示唆されております。

これまでの国内第II相臨床試験の結果から、本剤の眼圧下降効果と安全性が確認されております。

WP-1303 (H-1129) について

DWTI が保有するプロテインキナーゼ阻害剤を中心とした化合物ライブラリー³⁾ から見出された新薬候補化合物であり、当社が2013年3月にライセンス契約を締結し、緑内障・高眼圧症を適応症とした非臨床試験を進め、2017年3月に国内第I相臨床試験が終了、2018年7月に国内第II相臨床試験が良好な結果で終了致しました。

以 上

用語解説

1) プロテインキナーゼ

ATP（アデノシン三リン酸と言われ、体内で作られる高エネルギー化合物）等、生体においてエネルギーの元となる低分子物質等のリン酸基を、タンパク質分子に転移する（リン酸化）酵素です。一般にリン酸化を触媒する酵素をキナーゼと呼び、特にタンパク質をリン酸化するキナーゼをプロテインキナーゼと言います。

2) 阻害剤

生体内の様々な酵素分子に結合して、その酵素の活性を低下若しくは消失させる物質を指します。化学物質が特定の酵素の活性を低下若しくは消失させることにより、病気の治療薬として利用されることがあります。

3) 化合物ライブラリー

化合物ライブラリーとは、新薬候補化合物のタネとなる化合物群です。これらの化合物の一つ一つが特徴的な性質を有している可能性があり、基礎研究や新薬候補化合物発見に利用されます。